

ふらのフォーラム一言感想集

ふらのフォーラムに参加して 生振小学校 中川 雄二

昨年に引き続き富良野フォーラムに参加させていただきました。昨年度は尾崎先生のみでした大学の先生も、今年は末富先生も加わり、内容もより充実した感じがしました。フォーラムの内容は他の方が書かれると思いますので、私は2日目の午後に開催された「樹海地区ワークショップ」の感想をちょっとだけ書きます。

樹海地区は農業地帯で、それを生かした総合学習でかぼちゃの栽培をしているとのこと、同様に米作をしている、生振小での参考になればと思い参加したのですが、30名程の参加者の中で尾崎先生と末富先生を除けば地域の方が上川の教職員で、自分一人がどこか浮いている感じがしました。

樹海地区も他の農業地帯と同じように高齢化・後継者不足が進む中で地域を盛り上げ、集落を存続していくために「もりあげ隊」や「やってみる会」というNPO団体を組織し、バスツアーや野菜の直売所等の活動を行っているとのこと。

意見交流の中では、地域の方が積極的に発言されていたのが印象的でした。若い世代が頑張っているなあと感じ、私自身も見習わなくてはと感じました。貴重な機会を与えていただいた事務局の方々に感謝します。ありがとうございました。

兵庫県立大学尾崎先生の講演は、昨年も実は難解だと感じていました。しかし、今年はオプション研修の栗山町ハサンベツ里山実行委員会と雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウスの視察を経ての尾崎先生の講演という流れが感動的でした。その理由をうまく説明することができなくて申し訳ありませんが、自分の中はかなり定着した感じがあります。もう一度栗山で、実際にプログラムを体験してみたいなと思いました。末富先生の講演は、これからの学校財政財務活動にとっていくつかの重要な示唆を与えてくださいました。尾崎・末富両先生の組み合わせが大変良かったと思います。(H.T)

ふらのフォーラムへ参加して 花川南小学校 品川 龍平

3年連続富良野フォーラムへ参加させていただきました。毎年指向が違い(テーマはほぼ同様ですが)とても新鮮な気分に参加させていただいており、マンネリ化しないように、という実行委員の皆さんのご苦勞が察せられます。今回特に印象に残ったことでは教育課程と教材備品・物品との関係で、事務職員は教員と同等あるいはそれ以上に知っているべきで「この単元ではこういう教材備品が有効ですよ。」と教員に教えるぐらいでなければいけないということです。授業・教科等へも関心を持ち、又、IT化も進んで備品もどんどん出てきているが、常に新しいものに対しても苦手意識を持たずに学んでいきたいと思いました。

ふらのフォーラムに参加して 緑苑台小学校 長原世界

今回、2回目のフォーラム参加となりました。前回に引き続き、尾崎先生の講演がありました。講演の内容も、今後の学校事務の展望を考える内容でこれからも引き続き、講演や何かで話が聞けたらと思います。他市町村の連携会議の現状も交流され、それぞ

れの進捗状況から、石狩の今後の展開を考えると、連携会議での実践がもうすこし一人一人のものにならないといけないなと思いました。これからも、他市町村との交流をもっていければと思います。

最後に さん（事務局註：江別のK.Yさんです）が話された、「実現するためには夢を語り追いつけることで実現する」（間違っているかも）ということばがしみました。石狩も、調査し課題を実現させるために、継続して話し合っ行き、実現しようと思いました。（S.T）

富良野フォーラムに参加して

厚田小学校 外崎 かおり

富良野フォーラムが昨年に引き続き、今年もへそ祭りの時期である7月26日（木）～27日（金）にかけて行われました。一昨年の学校間連携会議の視察、そして去年、今年と富良野フォーラムに参加し、毎年夏に富良野に研修に行くことがすっかり恒例となっている感じがする。今年は、前日である25日（水）から栗山町でのフィールドワークに参加することとなり、ハサンベツ地区での里山計画の現地視察と雨煙別小学校コカコーラ・環境ハウスで廃校を利用した自然体験プログラムと環境教育の視察を行いました。

ハサンベツ地区は、環境省の支援を受けて24haの土地を買収し、人手を使った自然保護を行っているところで、以前は18戸の農家の土地であったが離農などにより、失われた環境を町民のボランティア活動などにより、少しずつ手を加え里山づくりを進めてきたというお話を聞くことができました。住民参加型の地域づくりならではの問題点も挙げられており、若い人が進学や就職などで地元を離れるケースが多く、活動を始めてから12年が経過し、維持している人たちが高齢化している現状があるということでした。雨煙別小学校コカコーラ・環境ハウスでは、栗山町の教育長が講師となり栗山町の自然環境とふるさと教育についてお話がありました。今回の視察をしてみて、教育委員会と学校・地域が一带となって、地域での自然体験を通して子どもたちを育てていきたいと思いますといった姿が印象的でした。

26日（木）～27日（金）にかけてのフォーラムは、3つの講演とシンポジウム、そして学校間連携会議交流会が行われました。講演1では、こどもの参画とまちづくり～学校間連携会議の可能性～講演2では、義務教育の公私負担と学校予算、講演3では、全国を取り巻く状況といった内容のもので、地域の核としての学校のことや地域づくりと絡めて予算の提案を行っていくと、より学校予算を充実させていけるのではないかとといったこと、数値化できる事と数値化できないもの双方のアカウンタビリティができることが必要ではないか（フィールドワークでも栗山の教育長よりこの件についてはお話がありました。）といったこと、そして学校事務職員の全国的な状況など内容が多岐にわたったもので、非常に内容の濃い講演でした。また学校間連携会議交流会では、昨年の富良野市・北見市・石狩市に続き、今年は恵庭市・紋別市・上富良野町からの発表があり、とりくみ状況や課題等について交流があり、他市町の現状を知ることが出来て良かったと思いました。

写真がなくてすいません（事務局）